

なんケア通信

第22回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和元年8月6日(火) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」2階 地域文化ホール

参加者：28名(地域包括支援センター3名、介護事業所関係者13名、
医療機関関係者12名)

メインテーマ：高齢者糖尿病の患者支援



1. 「 高齢者糖尿病の患者支援 」
御野場病院 外来看護師
秋田県糖尿病療養指導士 鈴木美佳 氏
2. 「 高齢者と糖尿病 ～ 食事療法の考え方 ～ 」
御野場病院 管理栄養士
秋田県糖尿病療養指導士 浅野美沙子 氏、嵯峨菜美子 氏

令和元年8月6日(火)に「第22回なんケアの会」を開催致しました。本日は、竿灯まつりの最終日でありましたが、暑い中、28名の参加者に足を運んでいただきました。

テーマは「高齢者糖尿病の理解と患者支援」について、秋田県糖尿病療養指導士である、御野場病院の鈴木美佳氏(外来看護師)、浅野美沙子氏(管理栄養士)、嵯峨菜美子氏(管理栄養士)の3名からご講演いただきました。最近の調査では60歳以上の5~6人に1人が糖尿病と言われています。高齢者の糖尿病は身近なテーマということもあり、参加された皆様は熱心にメモを取りながら聴講されていました。

鈴木氏からは、高齢者糖尿病の特徴や治療方法、在宅での困った事例に対する支援方法について、解説していただきました。高齢者は高血糖・低血糖ともに症状が出にくいのですが、様々な合併症をきたしやすいという特徴があるとのことでした。治療としては、高齢者の血糖コントロールは厳格には行わず、生活の質が落ちない程度のコントロールを目指しているとのことでした。また、訪問看護師・ヘルパー・ケアマネジャーからの生活の中での情報が、より適切な治療に繋がる人が多いそうです。多職種間の情報共有を密に行いながら、患者支援を進めていくことが大切であると改めて感じました。

続いて、浅野氏、嵯峨氏からは食事療法の考え方について詳しく解説していただきました。加齢に伴って自立した生活や自己管理が難しくなり、食生活に様々な問題が起こりがちですが、例えば、調理をするのが困難な場合は、調理済みの宅配サービスを利用したり、食べ過ぎてしまう場合は、大皿ではなく小皿に少なめに盛り付けるなどの工夫をする、などのアドバイスがありました。また、実際に行っている糖尿病の栄養指導の内容や、献立作成の基礎知識、間食・お惣菜選びのポイントも詳しく教えていただきました。

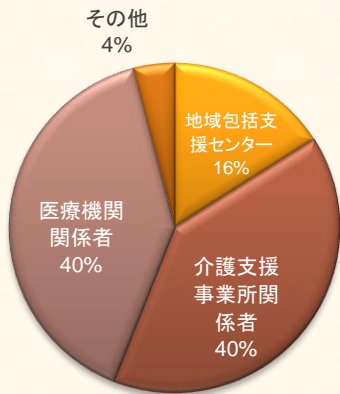
高齢者の方々は、慣れ親しんできた生活習慣・食習慣が身につについて、変えることが困難な場合が多いようです。質疑応答の中で、介護老人保健施設山盛苑施設長の宮下正弘先生がおっしゃっていたように、基本的には厳しい制限をしないで、生きる喜びを感じながら楽しい人生をおくれるような支援を心掛けていきたいと思いました。

次回のなんケアの会は10月上旬で、地域の皆様も参加していただける、公開講演会を予定しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

アンケートの
集計結果

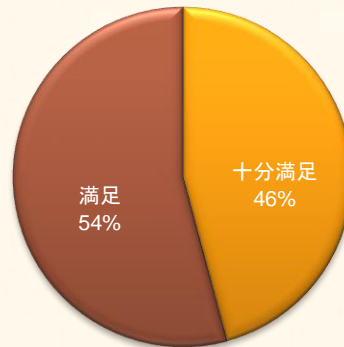


所属



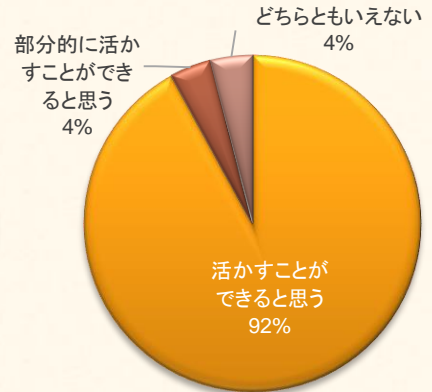
- 地域包括支援センター
- 介護支援事業所関係者
- 医療機関関係者
- その他

なんケアの会に参加して、
いかがでしたか？



- 十分満足
- 満足

今後、地域での活動に
活かすことができそうですか？



- 活かすことができると思う
- 部分的に活かすことができると思う
- どちらともいえない

回収率：89.3% (アンケート配布：28名、回収：25名)

会場の様子



皆様からの
ご意見・ご感想

非常に分かり易く、ポイントが絞られた良いレクチャーでした。スライドも楽しくできていました。

介護支援事業所関係者

今回の講演2題ともわかりやすく、また質疑応答の内容等も含め、糖尿病について理解できました。ありがとうございました。

医療機関関係者

現利用者への助言の仕方を学ぶことができました。高齢者にとって生きる喜びを提案したいと思います。

地域包括支援センター

次回開催の
お知らせ

開催日時：令和元年10月4日（金） 18:00～19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」2階 地域文化ホール

